

平成 30 年度 四国横断自動車道 吉野川渡河部の環境保全に関する検討会
第 9 回検討会での質問に対する回答について

第 9 回検討会における傍聴者の方々からのご質問についてお答えします。

○質問－ 1

潮間帯の環境モニタリング調査は、重要であると思いますが、当初決めていたポイントは大きな地形変化が、あったと考えられます

河口干潟の潮間帯調査は実施していますか？

◆回答－ 1

底生物調査のうち、河口干潟では潮間帯定量調査を継続して実施しております。

○質問－ 2

来年度以降は、大きな台船が入る工事になるのではありませんか？工事の施工方法に伴うモニタリング手法、課題、検証するために、4月と8月の全2回の委員会は必要と考えます。

◆回答－ 2

平成 30 年度及び平成 31 年度の河川を利用した工事は、これまでと同様に橋脚等の整備を実施する予定です。これは、出水期施工を実施する場合においても同様であるため、必要に応じて同規模の台船を用いる予定です。

環境モニタリング調査及び検討会の開催については、引き続き、委員からご指導、ご助言をいただきながら適切に進めていきたいと考えております。

第 9 回検討会では傍聴者の方々から意見・要望を頂きました。

○意見・要望－ 1

吉野川と海が、まさに出会う大河口の環境変化が大きい場所で、出水期に工事を行うことについて、底生物の дайジ 的な活動時期にあたるので底生物は もちろん シギ・チドリ 類へ 様々な 悪影響が できる こと 治水上の問題が、たいへん 心配です。

◆回答－ 1

今後、出水期施工を実施する場合においても、委員からご指導、ご助言をいただきながら環境モニタリング調査を適切に進めていきたいと考えております。また、治水上の安全確保についても適切に進めてまいります。

○意見・要望－ 2

潮間帯の底生物モニタリング調査データが今回示されていないようです。

◆回答－ 2

第 9 回検討会では、地形調査及び潮下帯生物調査の速報のみを報告しております。次回の第 10 回検討会において、潮間帯定量調査も含めて、全ての環境モニタリング調査結果を提示する予定としています。

○意見・要望－3

マリンピアの人工海浜の砂が少なくなっているため、河口でしゅんせつした土砂を入れてほしいと上月委員から、発言がありました。吉野川河口の左岸、右岸の連続性が重要であると考えますマリンピアの人工海浜も含めて、左岸の小松海岸の地形変化、および環境調査も必要だと思います

◆回答－3

環境モニタリング調査については、引き続き、委員からご指導、ご助言をいただきながら適切に進めていきたいと考えております。

○意見・要望－4

今回、右岸とつながって、広がった河口の中州干潟のエリアについて潮間帯調査を実施してください

◆回答－4

環境モニタリング調査については、引き続き、委員からご指導、ご助言をいただきながら適切に進めていきたいと考えております。

○意見・要望－5

出水期の工事中に伴う、しゅんせつの影響が、心配です

◆回答－5

今後、出水期施工を実施する場合においても、委員からご指導、ご助言をいただきながら環境モニタリング調査を適切に進めていきたいと考えております。また、浚渫の影響評価に関しては第6回検討会より検討を進めておりますので、下記をご確認下さい。

第6回検討会（平成27年10月27日開催） <http://corp.w-nexco.co.jp/newly/h27/1027/>

第7回検討会（平成28年8月3日開催） <http://corp.w-nexco.co.jp/newly/h28/0803b/>

第8回検討会（平成29年8月29日開催） <http://corp.w-nexco.co.jp/newly/h29/0829/>

なお、出水期施工を実施する場合、出水等の発生状況に応じて、浚渫の回数が増える可能性があります。その影響については、今後も環境モニタリング調査を行いながら、適切に影響を監視してまいります。さらに、調査結果に基づく各種検討についても、引き続き、委員からご指導、ご助言をいただきながら適切に進めていきたいと考えております。
